



健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
金淵 隆人

強直性脊椎炎は、脊椎関節炎の代表的疾患で、脊椎や関節の痛みと運動制限を生じ、その合併症、続発症により、QOL(生活の質)を大きく損なう疾患です。多くが30歳までに発症し、病勢のピークを青壮年期(30歳~50歳代)に迎えます。脊椎や四肢の関節の痛みと運動制限を特徴とし、慢性的に進行するリウマチ性疾患です。炎症は仙腸関節や脊椎、さらには末梢関節や腱・靭帯付着部に始まり、重症例の進行期には脊椎や関節が動かなくなります。また、経過中に急性前部ぶどう膜炎など、目の併発症を伴うことがあります。

日本の強直性脊椎炎の有病率は、0.02~0.03%と推定され、欧米の白人の1/20以下です。3~4対1で男性に多く、ほとんどが40歳以前に発症します。背骨を中心とする身体のこわばりや体重減少、疲労感、発熱、貧血などが全身の症状です。病気がかかっている期間が長くなれば、骨粗しょう症はほぼ必発で、脊椎骨折の発生率が高くなり、骨粗しょう症の治療も必要になります。

強直性脊椎炎を知っていますか。

リスクファクター(危険因子)は「HLA-B27陽性」、「男性」、「喫煙」、「炎症の存在」です。

診断基準における臨床症状は、「腰背部の痛み・こわばりが3カ月以上続き、運動により改善し安静により改善しない」、「腰椎の可動域制限がある」、「胸郭の拡張制限がある」、「朝のこわばりの持続時間が30分以上ある」、「明け方のみに背部痛のために目覚める」、「左右に移動する臀部痛がある」などです。確定診断のためには、仙腸関節のレントゲンやMRI検査が必要です。

非ステロイド性抗炎症剤(消炎鎮痛剤)が治療の第一選択ですが、社会生活に著しい障害がある場合は、TNF阻害薬の適応となります。種々の物理療法や運動療法は、痛みの軽減や機能改善・維持に有用です。強直性脊椎炎は医療費助成制度の対象となる指定難病です。40歳以下で症状が気になる方は専門医の受診が必要です。

〔金淵整形外科クリニック〕

／泉区将監



い、痛い……

建造物の解体工事は、お任せください。

地域、環境を考え高い技術力で
安心な解体作業を行います。

翔 (株) 丸 翔

〒983-0013 仙台市宮城野区中野字神明172-2

TEL: 022-388-8685